

# 授業概要（シラバス）

<作業療法学科 2 学年>

2024年度

学校法人 君津あすなろ学園  
千葉医療福祉専門学校

2024年度 作業療法学科 開講科目一覧

1 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	心理学	通年	2	60
	情報コミュニケーション学Ⅰ	前期	1	30
	情報コミュニケーション学Ⅱ	後期	1	30
	情報コミュニケーション学Ⅲ	前期	1	15
	基礎数理学	通年	2	30
	健康と身体	通年	1	30
	社会福祉概論	後期	1	30
	医学用語	通年	1	30
	公衆衛生学	後期	1	15
	総合演習Ⅰ	通年	1	30
専門基礎分野	人体の構造Ⅰ	前期	1	30
	人体の構造Ⅱ	後期	1	30
	人体の構造Ⅲ	前期	1	30
	人体の構造Ⅳ	後期	1	30
	人体の機能Ⅰ	前期	1	30
	人体の機能Ⅱ	後期	1	30
	運動学Ⅰ	後期	1	30
	リハビリテーション医学Ⅰ	後期	2	30
	病理学	後期	1	15
	救急救命法	通年	1	30
	リハビリテーション概論Ⅰ	通年	2	60
専門分野	作業療法概論	通年	2	60
	基礎作業学	通年	2	60
	地域リハビリテーション	後期	1	15
	職業リハビリテーション	通年	1	15
	見学実習	通年	1	45
26科目			32	単位

2 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	人間発達学	前期	1	30
	総合演習Ⅱ	通年	1	30
専門基礎分野	人体の構造実習	通年	1	30
	人体の機能実習	前期	1	30
	運動学Ⅱ	前期	1	30
	運動学Ⅲ	後期	1	30
	運動学実習	後期	1	30
	運動生理学	前期	1	15
	リハビリテーション医学Ⅱ	後期	1	15
	内科学	通年	2	60
	運動器病態学	通年	2	60
	臨床神経学	前期	2	60
	精神医学	通年	2	60
専門分野	臨床心理学	前期	1	30
	リハビリテーション概論Ⅱ	通年	2	60
	作業療法評価学Ⅰ	前期	1	30
	作業療法評価学Ⅱ	後期	1	30
	作業療法評価学Ⅲ	後期	1	30
	作業療法評価学Ⅳ	前期	1	15
	作業療法評価学実習Ⅰ	前期	1	30
	作業療法評価学実習Ⅱ	後期	1	30
	作業療法評価学実習Ⅲ	後期	1	30
	発達領域作業療法学Ⅰ	前期	1	20
	日常生活関連活動学	通年	3	60
生活支援環境学	後期	1	15	
その他	地域リハビリテーション実習	後期	1	45
	地域リハビリテーション実習演習	後期	1	15
27科目			34	単位

3 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
基礎分野	総合演習Ⅲ	通年	1	30
専門基礎分野	リハビリテーション医学Ⅲ	通年	2	30
専門分野	作業分析	通年	2	60
	作業療法研究法	後期	1	15
	作業療法管理学	前期	2	30
	発達領域作業療法学Ⅱ	通年	2	40
	整形疾患作業療法学	通年	3	60
	精神疾患作業療法学	通年	3	60
	老年期疾患作業療法学	通年	3	60
	中枢神経疾患作業療法学	通年	3	60
	作業療法技術論	通年	1	30
	義肢装具学	後期	2	30
その他	地域作業療法学	通年	2	30
	臨床評価実習	通年	9	360
	臨床評価実習演習Ⅰ	通年	1	30
	臨床評価実習演習Ⅱ	通年	1	30
16科目			38	単位

4 学年

分野	科目名	開講期	単位	時間
専門分野	臨床総合実習	前期	17	680
その他	臨床総合実習演習	通年	1	30
	総合演習Ⅳ	通年	5	175
	卒業研究	通年	2	60
4科目			25	単位

OT2年 前期		講義概要	一般目標
基礎分野		本講義は「人間発達学」の概論と発達の各時期・年齢に応じた変化・発達を理解・学習する 正常発達や発達障害のリハビリテーションを学ぶ上での基礎知識を理解・学習する。	◎子どもから老人までの、人間発達の概観を理解する。 ◎発達の5原理ほか基本的な発達特性を理解する。 ◎正常発達の、誕生から就学前までの心身の発達の概要を説明できる。
人間発達学			
1単位	15回		
作業療法学科:◎金谷優志 理学療法学科:岡村安俊			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	第1章:発達概念 第2章:人間発達(発達理論)	○発達に関する定義, 発達の原則, 発達の重要性 ○エリクソンの発達理論	
2	第2章:人間発達(発達理論)	○ピアジェの発達理論 ○フロイトの発達理論 ○その他の発達理論	
3	第3章:発達検査	○発達検査とは? ○標準化された発達検査とは?	
4	第4章:姿勢反射/反応	○原始反射, 姿勢反射/反応とは? ○原始反射の出現・統合とは?	
5	第5章:運動発達(0~3カ月)	○各肢位における運動発達を概観する ○特に, 定頭・正中位指向について理解を深める	
6	第6章:運動発達(4~6カ月)	○各肢位における運動発達を概観する ○特に, 寝返り・座位獲得について理解を深める	
7	第7章:運動発達(7~9カ月)	○各肢位における運動発達を概観する ○特に, 移動運動(はいはいつかまり立ち)について理解を深める	
8	第8章:運動発達(10~12カ月)	○各肢位における運動発達を概観する ○特に, 伝い歩き・独歩の獲得について理解を深める	
9	第9章:運動発達(13~18カ月)	○各肢位における運動発達を概観する ○特に, 初期歩行・応用歩行について理解を深める	
10	第13章:感覚・知覚・認知・社会性の発達	○生きるために必要な感覚と, それを処理する知覚・認知の構造を理解する。 ○社会生活に必要な機能の発達を理解する。	
11	第11章:上肢機能の発達	○上肢における様々な機能と, その発達過程を理解する。	
12	第12章:ADLの発達(遊び・食事)	○遊び・食事の発達過程を理解する。 ○こどもの遊び・食事場面の観察により, こどもの生活のイメージを持つ。	
13	第12章:ADLの発達(排泄・更衣)	○排泄・更衣の発達過程を理解する。 ○ADLの発達表を作成することで, こどもの発達の全体像を捉える	
14	第14章:学童・青年・成人・老年期の発達	○各時期の発達課題・特徴・キーワードについて理解する	
15	まとめ 学習理解度確認	○試験を通じて理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
教科書: 上杉雅之(監修): イラストでわかる人間発達学. 医歯薬出版株式会社, 2015. 参考書: 岩崎清隆ほか(著): 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野, 人間発達学. 医学書院, 2010. 土田玲子(監修): 感覚統合Q&A. 改訂第2版, 協同医学出版社, 2013. 資料: 今井和子(監修): 0・1・2歳児 乳幼児の育ち事典1~3. 小学館, 2009.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点: 80点(前期試験) 平常点: 20点(ワークシート)		月齢・年齢に応じてできることを理解すると共に, その過程・つながりを学習して下さい。 毎回のワークシート提出により, 出席とします。 ワークシートは自身の学習の振り返りのために, “自由に”取り組んでください。 授業内で気づいたことや疑問などは率直にワークシートに記載してください。 また, それ以外の発達に関する質問なども積極的に貰えると授業が活発になります。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
その他		1. 1~3年生でのグループ学習を行う。6回の授業を通して課題を理解し、理解した内容について発表する。各回において事前・事後課題に取り組む。 2. 1,2年生でのグループ学習を行う。1年次学習の総まとめとして国家試験問題に取り組む、2年次の学習につなげる。年度末学力テストへ向けての学習ともなる。	1. 質問することを通じ、能動的な学習態度を身につけることができる。また、現在学んでいる内容の必要性・関連性等を理解して、学習意欲向上につなげることができる。 2. 1年次に学んだ内容について理解し、2年次の学習につながるよう知識を定着化することができる。
総合演習Ⅱ			
1単位	15回		
作業療法学科: 金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション	1~3年生でのグループ学習の進め方について理解することができる。合同グループで1回目の事前学習に取り組むことができる	
2	課題授業①	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる	
3	課題授業②	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる	
4	課題授業③	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる	
5	課題授業④	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる	
6	課題授業⑤	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる	
7	課題授業⑥	1~3年生でのグループ学習で、提示された課題について理解し説明できる	
8	発表①	6回授業を通し、提示された課題についてグループで協力して資料を作成し、発表することができる	
9	発表②	6回授業を通し、提示された課題についてグループで協力して資料を作成し、発表することができる	
10	まとめ① 解剖学	1~3年生でのグループ課題で、提示された課題について理解し取り組むことができる	
11	まとめ② 生理学	1~2年生でのグループ学習で、解剖学に関する問題に取り組む理解することができる	
12	まとめ③ 運動学	1~2年生でのグループ学習で、生理学に関する問題に取り組む理解することができる	
13	まとめ④ 3科目	解剖学・生理学・運動学の問題に挑戦し、内容について理解することができる。挑戦問題	
14	まとめ⑤ 3科目	解剖学・生理学・運動学の問題に挑戦し、内容について理解することができる。挑戦問題	
15	まとめ⑥ 3科目	解剖学・生理学・運動学の問題に挑戦し、内容について理解することができる。挑戦問題	
教科書・参考書・資料			
主に人体の構造・人体の機能・運動学の教科書を使用する。 その他、その都度指示をする。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点(100点) ①3学年グループ課題 事前課題3点×6回 事後課題3点×6回 12点×1回 ②ミニテスト・挑戦問題 10点×5回 ③学習態度 2点		課題の理解に重点を置き、能動的に学習に取り組むこと。	

OT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		体表から骨や筋に実際に触れることで、机上で得た知識の理解を深めていく。評価や治療に必要な体表解剖の知識と触診技術を身につける。	構造を立体的にイメージし、実際に触れることで内部構造を「探る」ことができるようになる。触診の方法論の習得を目的とするため、授業で触れていない筋に関しても、自ら「探る」ことができるようになる。
人体の構造実習 (※解剖見学, 体表解剖学)			
1単位	15回		
理学療法学科: ©藤原正之, 小林好信 作業療法学科: 金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	骨関節・筋の体表解剖(上肢・上肢帯)	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実践できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
2	骨関節・筋の体表解剖(上肢・上肢帯)	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実践できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
3	骨関節・筋の体表解剖(上肢・上肢帯)	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実践できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
4	骨関節・筋の体表解剖(上肢・上肢帯)	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実践できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
5	骨関節・筋の体表解剖(上肢・上肢帯)	触診をする際に必要な知識・身体の使い方を理解し、実践できるようになる。上肢・上肢帯の骨・関節を「探る」ことができる	
6	骨関節・筋の体表解剖(下肢・下肢帯)	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
7	骨関節・筋の体表解剖(下肢・下肢帯)	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
8	骨関節・筋の体表解剖(下肢・下肢帯)	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
9	骨関節・筋の体表解剖(下肢・下肢帯)	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
10	骨関節・筋の体表解剖(下肢・下肢帯)	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
11	骨関節・筋の体表解剖(体幹)	下肢・骨盤帯の骨・関節を「探る」ことができる	
12	習得度確認	習得度の確認を行う	
13	習得度確認	習得度の確認を行う	
14	習得度確認	習得度の確認を行う	
15	補習・復習	理解や習得の不足している項目に関して、理解度・習得度を深める。	
教科書・参考書・資料			
参考書: 林典雄『運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹』メグ・加比'ユー 2012、 林典雄『運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢』メグ・加比'ユー 2012			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点: 100点		触診の授業の際は、触診部位が露出できる服装で臨むこと。 実習の参加にあたっては、清潔感ある容姿であることが基本条件となる。	

OT2年	前期	講義概要	一般目標
専門基礎分野		運動など生命現象にかかわる事象について、運動生理および電気生理学的手法を用いて解析する。実験結果についてワークシートにまとめる。	講義で学んだ生理学的事象について実際の実験を通して理解を深める。各実験手法および得られたデータを解析し、ワークシートにまとめる能力を身につける。
人体の機能実習 (※生理学実習)			
1単位	15回		
理学療法学科:藤原正之 作業療法学科:◎武井亜由美, 金谷優志			
項目		この講義で学ぶこと・行動目標	
オリエンテーション		授業内の課題等について説明する。	
H波M波 【藤原】		誘発筋電図を用いて筋の収縮様式を捉えることができるようになる。	
神経伝導速度の計測 【藤原】		誘発筋電図を用いて神経伝導速度を計測することができるようになる。	
等尺性収縮 【藤原】		動作筋電図を用いて筋の収縮様式を捉えることができるようになる。	
運動による呼吸機能の変化 【金谷】		運動による換気機能の変化を捉えることができる	
運動負荷 【金谷】		運動における心拍数の測定やその変化を体験・学ぶ	
スパイロメーター、心電図 【武井】		スパイロメーター、心電図が使えるようになり、データを読み取ることができる	
皮膚感覚 【武井】		皮膚感覚とその受容器の分布の違いについて理解できる	
教科書・参考書・資料			
参考書:『新・生理学実習書』日本生理学会編 南江堂 1991 『臨床神経生理学』柳沢・柴崎 医学書院 2008 『計測法入門』内山他著 協同医学出版 2001 『脳波判読 step by step 第4版 入門編』大熊他著 医学書院 2006 ・その他資料は各教員から必要に応じて配布される ・生理学の教科書を持参すること			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点 100点 1つの実習後とに出席:1.3点、授業態度:3点、 ワークシート提出:5点、ワークシート内容:5点=14.3点 7実習合計100.1点(小数点切り捨て)		オリエンテーションで配布する「人体の機能実習概要」を参照し、各実習の予定・実施場所・担当者を把握し、円滑に実習をすすめられるように準備をすること。 本講義では7種類の実習を行う(1実習2コマ)	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		四肢体幹の筋や靭帯など関節構成要素の構造と機能について学習する。筋の起始、停止、神経支配を理解し各運動における作用を考察する。	各筋の起始、停止、神経支配を理解する。筋、靭帯等の運動時の作用について理解する。
運動学Ⅱ (※ 関節の運動学)			
1単位	15回		
理学療法学科:◎藤原正之, 富永知里 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	膝関節(藤原)	膝関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について実習も含めながら学習する	
2	膝関節(藤原)	膝関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について実習も含めながら学習する	
3	足関節(藤原)	足関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について実習も含めながら学習する	
4	足関節(藤原)	足関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について実習も含めながら学習する	
5	足関節(藤原)	足関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について実習も含めながら学習する	
6	肩甲帯・肩関節(富永)	肩甲帯・肩関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について学習する	
7	肩甲帯・肩関節(富永)	肩甲帯・肩関節の機能解剖(関節構成要素、構造、バイオメカニクス等)について学習する	
8	脊柱(頸椎、胸椎、腰椎)(富永)	脊柱の靭帯と制限要素・バイオメカニクス、胸郭の運動と呼吸。	
9	骨盤・股関節(富永)	靭帯の緊張と運動制限、仙骨の運動、頸体角・前捻角について学習する	
10	骨盤・股関節(富永)	靭帯の緊張と運動制限、仙骨の運動、頸体角・前捻角について学習する	
11	肘関節・前腕①(武井)	肘関節に関する筋・靭帯・関節包の機能について学習する	
12	肘関節・前腕②(武井)	肘関節に関する筋・靭帯・関節包の機能について学習する	
13	手関節・手指①(武井)	橈骨手根関節に関与する筋、靭帯、関節包の機能について学習する	
14	手関節・手指②(武井)	手根中央関節・手根中手関節に関与する筋・靭帯・関節包の機能について学習する	
15	まとめ	まとめ	
教科書・参考書・資料			
中村隆一著 基礎運動学(第6版) 補助資料:筋骨格系のキネシオロジー カバンディ関節の生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点 100点 (藤原35%, 富永35%, 武井30%)		筋肉の起始、停止、作用は復習してください。	

OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		<p>これまでに学んだことを姿勢、歩行といった、より実用的な動作レベルで理解する。また、姿勢や歩行について運動学的用語を用いた表現を可能とするための土台を作る。それにより、評価時の動作分析に応用できるようにする。さらに、運動発達過程、運動学習について学ぶ。</p>	<p>立位姿勢を力学的観点から視ることにより、臨床応用へと結びつける。歩行周期で、歩行を観察し、運動学的また運動力学的に歩行を捉えることができる。中枢疾患治療の基礎となる運動発達および運動学習理論を身に付ける。</p>
運動学Ⅲ (※ 歩行, 運動学習)			
1単位	15回		
作業療法学科:◎金谷優志 理学療法学科:小林好信			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	姿勢	姿勢評価に必要な基本的なアライメントや骨指標を覚える。視点が変化することにより、姿勢評価は多岐にわたることを理解する。	
2	立位姿勢の制御・異常	無意識で行われている姿勢制御の仕組みや姿勢保持に関わる筋の働きを理解する。基礎知識から運動療法に至る過程をイメージできる。	
3	歩行周期	歩行周期を基本に、歩行の特徴を表す要因を理解する。	
4	歩行の運動学的分析①	歩行時の関節運動について理解する。	
5	歩行の運動学的分析②	重心の移動や歩行エネルギーの効率化を図るための合理的な仕組みを理解する。また、歩行の神経機構について理解する。	
6	歩行の運動力学的分析	歩行時の筋活動やパワー、床反力の働きなどについて理解する。	
7	問題演習	国試過去問の問題演習により、知識の定着を図る。	
8	運動分析・作業分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般的な運動分析・作業分析の概略を理解する。</li> <li>○運動分析の手法を用い、様々な運動の分析を体験する。(グループワーク)</li> </ul>	
9	運動分析 ワークショップ	○前回学習した運動分析の手法を用い、様々な運動の分析を体験する。(グループワーク)	
10	運動分析 ワークショップ発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループワークにて実施した運動分析の結果を発表する。</li> <li>○各グループが発表した分析結果を検証する。</li> </ul>	
11	運動学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒトが新規の運動を学習する過程を知る。</li> <li>○運動学習理論にて使用される用語が理解できる。</li> </ul>	
12	運動学習 スキーマ理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動学習と記憶との関連を理解する。</li> <li>○スキーマ理論の概略を理解する。</li> <li>○スキーマ理論で使用される用語を理解する。</li> </ul>	
13	運動学習 スキーマ理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動学習と記憶との関連を理解する。</li> <li>○スキーマ理論の概略を理解する。</li> <li>○スキーマ理論で使用される用語を理解する。</li> </ul>	
14	学習の諸理論 練習と訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な学習の理論を復習し、運動学習とのつながりを理解する。</li> <li>○学習を成立させるための練習や訓練の種類や形式を知る。</li> </ul>	
15	まとめ 学習理解度の確認	○試験を通じて理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
<p>教科書:中村隆一ほか(著):基礎運動学. 第6版補訂, 医歯薬出版株式会社, 2012. 参考書:観察による歩行分析, 医学書院. セラピストのための運動学習ABC, 文光堂</p>			
判定基準/割合		履修上の留意点	
<p>平常点:10点 棄 点:90点(小林45点、金谷45点)</p>		○1年次および2年次前期に履修した運動学、解剖生理学、心理学、人間発達学などと深い関わりがある内容ですので、復習をしてから受講してください。	



OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		解剖学・生理学・運動学で修得した知識を基に、さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析します。分析を通じて、体の仕組みについて理解を深めていきます。	①運動学で学んだ知識を基盤として、基本動作について、理解を深める。 ②上肢帯、体幹・脊柱、下肢の運動学的特徴を理解を深める。 ③国家試験問題を通じて理解度の確認や今後の学習目標・課題を明確にできる
運動学実習			
1単位	15回		
作業療法学科：早川るみこ			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	運動学実習の概要 分析の概要	概要(観察・記述・分析について)・動作分析とは何かを理解し、説明できる。	
2	静的立位姿勢の分析	安静立位姿勢のアライメント評価	
3	静的座位姿勢の分析	安静座位姿勢のアライメント評価	
4	基本動作(立ち上がり)の分析	立ち上がり動作のメカニズムを説明できる 立ち上がり動作の多様性を考えることができる	
5	基本動作(寝返り・起き上がり)の分析	寝返り・起き上がり動作のメカニズムを説明できる 寝返り・起き上がり動作の多様性を考えることができる	
6	基本動作(寝返り・起き上がり)の分析	寝返り・起き上がり動作のメカニズムを説明できる 寝返り・起き上がり動作の多様性を考えることができる	
7	上肢帯及び上肢の関節運動①	肩甲帯・肩関節に関する構造と運動を理解し、説明できる (肩甲上腕リズムの計測を通して)	
8	上肢帯及び上肢の関節運動②	肘関節以遠の構造と運動を理解できる (テノデーシスアクション、手の形の分析)	
9	上肢帯及び上肢の関節運動③	まとめ 上肢の運動の理解度確認	
10	脊柱・体幹の関節運動①	体幹の運動における範囲の確認、脊柱の運動学的特徴を理解する 座位での骨盤の肢位による違いを理解できる	
11	脊柱・体幹の関節運動②	体幹の運動における範囲の確認、脊柱の運動学的特徴を理解する 座位での骨盤の肢位による違いを理解できる	
12	下肢帯及び下肢の関節運動①	下肢の関節運動における運動学的特徴を理解する 二関節筋の影響を理解する	
13	下肢帯及び下肢の関節運動②	下肢の関節運動における運動学的特徴を理解する 二関節筋の影響を理解する	
14	問題演習	運動学領域の国家試験問題を解いて、自身に必要な課題を明確にできる	
15	問題演習	運動学領域の国家試験問題を解いて、自身に必要な課題を明確にできる	
教科書・参考書・資料			
中村隆一 他 基礎作業学 第6版補 医歯薬出版 ADL PTOTビジュアルテキスト 羊土社 ADL ゴールドマスターテキスト medical view 石井慎一郎 動作分析 臨床活用講座 medical view			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点100点(レポート)		授業には、動きやすい恰好(ズボン)で参加してください。 グループワークには積極的に取り組んでください。 提出物は期限までに必ず提出しましょう。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		身体運動遂行時の体の機能や適応能について学ぶ。身体運動を継続した時にどのような永続的適応(トレーニング効果)を示すのか、そしてそれらの背景となる生理学的機序について学習を進める。	理学療法士・作業療法士として臨床場面で生ずる運動療法による身体所見について生理学的根拠を持って説明することができる。
運動生理学			
1単位	8回		
理学療法学科:◎岡村安優, 冨永知里 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション①糖質	糖質代謝について説明できる。	
2	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション②脂質	脂質代謝について説明できる。	
3	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション③蛋白質	蛋白質代謝について説明できる。	
4	【PT科・OT科合同】栄養とリハビリテーション④ビタミン	ビタミンの機能について説明できる。	
5	【PT科・OT科合同】有酸素運動による身体反応	圧受容器反射について説明できる。	
6	【PT科・OT科合同】有酸素運動による身体反応	化学受容器反射について説明できる。	
7	【PT科・OT科合同】有酸素運動による身体反応	乳酸が蓄積するメカニズムと呼吸性代償について説明できる。	
8	【PT科・OT科合同】理解度の確認	筆記試験にて判定する。	
教科書・参考書・資料			
参考書:リハビリテーション運動生理学 玉木彰 著 MEDICALVIEW			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:筆記試験 90点 平常点:10点		筆記試験においては、PT科OT科合同授業で扱った範囲から出題する	

OT2年	通年	講義概要	一般目標
専門基礎分野		リハビリテーション実施にあたり薬物の影響を観察し考慮することは臨床の場において重要である。薬の基礎知識を学習しリハビリテーションへの活かし方を学ぶ。	薬の作用について理解する。薬の使い方について理解する。リハビリテーションへの活かし方を考える。
リハビリテーション医学Ⅱ (薬理学)			
1単位	8回		
非常勤講師:富沢道俊 作業療法学科:兼子健一 理学療法学科:◎岡村安優			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	薬理学・臨床薬理学の学び方	リハビリテーションへの活かし方。人体の成り立ち。疾患治療の本質。	
2	薬の基礎知識	薬の概念と分類	
3	薬の作用	生体内での働き	
4	薬の作用に影響する因子	薬の使い方	
5	薬物療法①	感染・炎症の制御と薬物療法。神経疾患の薬物療法。	
6	薬物療法②	精神疾患の薬物療法。循環器系疾患の薬物療法。	
7	薬物療法③	疼痛の制御と薬物療法。注意すべき品用される薬物。	
8	振り返り	知識の整理	
教科書・参考書・資料			
教科書:リハベーシック 薬理学・臨床薬理学			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点:100点		事前に生理学の復習を行うことが望ましい。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		広範に及ぶ内科学の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。	①重要な内科疾患について家族や知人に説明できる。 ②自身が重要な内科疾患を理解するためにDrに質問できる。 ③生理学の基礎知識の理解を深める。
内科学 (※前期15回)			
2単位	30回		
副学長: 庄司行孝 理学療法学科: 岡村安優, 富永知里 作業療法学科: 武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
2	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
3	進捗報告会(グループ別報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
4	進捗報告会(グループ別報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
5	進捗報告会(全体報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
6	進捗報告会(全体報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
7	進捗報告会(グループ別報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
8	進捗報告会(グループ別報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
9	進捗報告会(全体報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
10	進捗報告会(全体報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
11	予習資料作成①	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
12	予習資料作成②	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
13	補足講義	取り上げた内科疾患の理解をさらに深める	
14	補足講義	取り上げた内科疾患の理解をさらに深める	
15	前期のまとめ	グループワークの振り返り	
教科書・参考書・資料			
奈良塾 監修 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点: 50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 兼点: 50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		広範に及ぶ内科学の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。	①重要な内科疾患について家族や知人に説明できる。 ②自身が重要な内科疾患を理解するためにDrに質問できる。 ③生理学の基礎知識の理解を深める。
内科学 (※後期15回)			
2単位	30回		
副学長:庄司行孝 理学療法学科:岡村安優, 富永知里 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
17	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
18	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
19	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
20	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
21	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
22	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
23	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
24	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
25	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
26	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
27	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
28	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
29	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
30	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
奈良 監修 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 兼点:50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		広範に及ぶ整形外科学の中からリハビリ専門職に必要な範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。	①重要な整形外科疾患について、家族や知人に説明できる。 ②X線、MRIなどの画像所見を読めるようになる。画像から読み取れるリスクがわかる。 ③疾患理解する過程において、検査・測定・運動療法上の注意点も含めてDrに質問できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識の理解を深める。
運動器病態学 (※前期15回)			
2単位	30回		
学校長:保住寛 理学療法学科:藤原正之, 富永知里 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
2	講義概要説明、個人ワーク、グループワーク、資料作成	進捗報告会に向けた資料作成などの作業をすすめる。	
3	進捗報告会(グループ別報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
4	進捗報告会(グループ別報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
5	進捗報告会(全体報告1回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
6	進捗報告会(全体報告1回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
7	進捗報告会(グループ別報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
8	進捗報告会(グループ別報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
9	進捗報告会(全体報告2回目①)	グループワークの進捗状況を報告する	
10	進捗報告会(全体報告2回目②)	グループワークの進捗状況を報告する	
11	予習資料作成①	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
12	予習資料作成②	後期の発表に向けて、疾患を理解するための予習資料を作成する	
13	補足講義	取り上げた整形外科疾患の理解をさらに深める	
14	補足講義	取り上げた整形外科疾患の理解をさらに深める	
15	前期のまとめ	グループワークの振り返り	
教科書・参考書・資料			
教科書:病気がみえる①運動器・整形外科 適宜資料を配布する			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 棄点:50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		広範に及ぶ整形外科学の中からリハビリ専門職に必要範囲に重点をおいて、グループワークを中心に対話的に学習する。最終成果物として①疾患を説明するための資料作成、②①を理解するための予習課題を作成する。また、③①②を使用して発表を行う。	①重要な整形外科疾患について、家族や知人に説明できる。 ②X線、MRIなどの画像所見を読めるようになる。画像から読み取れるリスクがわかる。 ③疾患理解する過程において、検査・測定・運動療法上の注意点も含めてDrに質問できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識の理解を深める。
運動器病態学 (※ 後期15回)			
2単位	30回		
学校長:保住寛 理学療法学科:藤原正之, 富永知里 作業療法学科:武井亜由美			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
17	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
18	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
19	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
20	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
21	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
22	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
23	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
24	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
25	グループ発表会	グループの発表内容をもとに授業を展開し、発表内容の理解を深める。	
26	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
27	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
28	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
29	補講	発表会の内容を踏まえて、得た知識を整理する	
30	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書:病気がみえる①運動器・整形外科 適宜資料を配布する			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:50点 (前期グループ課題25点、後期個人課題25点) 兼点:50点(後期のみ)		能動的な姿勢が求められるため、積極的に授業に取り組むこと。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		臨床神経学領域の血管障害、変性疾患、脊髄疾患、脱髄疾患、腫瘍性疾患、炎症性疾患、遺伝性疾患などにおける重要な疾患について具体的、体系的に学びます。 疾患・またその症状を理解し、作業療法評価・治療に役立てることを目的としています。	①リハビリテーションに関わる神経疾患について理解を深めることができる。 ②臨床神経学に関する知識の基礎を築き、作業療法士として臨床場面で応用可能な臨床神経学の知識を学習することができる。
臨床神経学 (前期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	神経系の構造と機能	オリエンテーション 神経系の全体像と大脳の構造 大脳皮質 前頭葉 後頭葉	
2	神経系の構造と機能	大脳皮質 側頭葉 頭頂葉 大脳辺縁系・大脳基底核 間脳	
3	神経系の構造と機能	脳幹 小脳 膜電位とシナプス伝達	
4	運動・感覚	運動と感覚 運動 運動の異常 反射 運動の調節 感覚	
5	運動・感覚	運動と感覚 運動 運動の異常 反射 運動の調節 感覚 脳画像	
6	運動・感覚	運動と感覚 運動 運動の異常 反射 運動の調節 感覚 意識障害	
7	脳血管と脳血管障害	脳動脈 脳梗塞 脳内出血	
8	脳血管と脳血管障害	脳動脈瘤 くも膜下出血 脳動脈奇形 もやもや病	
9	外傷 脳静脈・髄液循環とその障害	頭蓋骨骨折 急性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫 脳静脈 脳脊髄液 水頭症 正常圧水頭症 (NPH)	
10	脳静脈・髄液循環とその障害 高次脳機能障害	脳静脈 脳脊髄液 水頭症 正常圧水頭症 (NPH) 高次脳機能障害(注意障害、記憶障害、遂行機能障害など) 脳画像	
11	脳血管障害 症例検討①	グループで症例について調べ学習を行う	
12	脳血管障害 症例検討②	グループで症例について症状から日常生活への影響などを検討する	
13	脳血管障害 症例検討③	グループで症例について発表準備を行う	
14	脳血管障害 症例検討④	発表	
15	まとめ	学習理解度確認を試験を通じて行う	
教科書・参考書・資料			
教科書:病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA			
判定基準/割合		履修上の留意点	
【前期15回】 平常点:10点(出席点) 兼点:90点(定期テスト)		・1年次の解剖学・生理学の復習をしておくようにしてください。 ・学んだことを復習し、知識を定着させましょう。	



OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		臨床神経学領域の血管障害、変性疾患、脊髄疾患、脱髄疾患、腫瘍性疾患、炎症性疾患、遺伝性疾患などにおける重要な疾患について具体的、体系的に学びます。疾患・またその症状を理解し、作業療法評価・治療に役立てることを目的としています。	①リハビリテーションに関わる神経疾患について理解を深めることができる。 ②臨床神経学に関する知識の基礎を築き、作業療法士として臨床場面で応用可能な臨床神経学の知識を学習することができる。
臨床神経学 (後期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	脳神経とその疾患	脳神経の構造と機能、自律神経 など	
2	末梢神経とその障害	末梢神経系 末梢神経障害(ニューロパシー) Guillain-Barre症候群 など	
3	脱髄性疾患	脱髄性疾患 多発性硬化症 など	
4	神経変性疾患	神経変性疾患 筋萎縮性側索硬化症(ALS) Parkinson病 Huntington病 脊髄小脳変性症(SCD) など	
5	神経変性疾患	神経変性疾患 筋萎縮性側索硬化症(ALS) Parkinson病 Huntington病 脊髄小脳変性症(SCD) など	
6	神経変性疾患	神経変性疾患 筋萎縮性側索硬化症(ALS) Parkinson病 Huntington病 脊髄小脳変性症(SCD) など	
7	認知症	アルツハイマー型認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 血管性認知症	
8	筋疾患 代謝性神経障害 感染性疾患 腫瘍 てんかん	ミトコンドリア脳症 周期性四肢麻痺 神経筋接合部疾患 重症筋無力症(MG) Lambert-Eaton症候群 代謝性神経障害 Wernicke脳症 単純部分発作 複雑部分発作 欠神発作 ミオクローン発作 強直間代発作 感染性疾患 髄膜炎 脳腫瘍 脳炎 など	
9	神経変性疾患 脱髄性疾患 認知症 症例検討①	グループで症例について調べ学習を行う	
10	神経変性疾患 脱髄性疾患 認知症 症例検討②	グループで症例について症状から日常生活への影響などを検討する	
11	神経変性疾患 脱髄性疾患 認知症 症例検討③	グループで症例について症状から日常生活への影響などを検討する	
12	神経変性疾患 脱髄性疾患 認知症 症例検討④	グループで症例について発表準備を行う	
13	神経変性疾患 脱髄性疾患 認知症 症例検討⑤	発表	
14	神経変性疾患 脱髄性疾患 認知症 症例検討⑥	発表	
15	まとめ	学習理解度確認を試験を通じて行う	
教科書・参考書・資料			
教科書:病気が見える vol.7 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点:90点(定期試験) 平常点:10点(出席点)		・1年次の解剖学・生理学の復習をしておくようにしてください。 ・学んだことを復習し、知識を定着させましょう。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		精神医学とは精神疾患の原因、精神機能の異常、各疾患の医学的視点から見た病態、症状、治療などを学ぶ学問である。心の障害について説明する。	①精神医学とは何かを学ぶ ②精神疾患の原因、歴史について学ぶ ③精神機能の異常について理解する ④各種精神疾患について理解する ⑤国家試験の傾向について学ぶ
精神医学 (※前期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:◎隈部智之 理学療法学科:岡村安優			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	精神医学の理解	精神医学の目標と概要について学ぶ。	
2	精神機能の把握	意識障害や、知覚・記憶・知能の異常について理解する。	
3	精神機能の把握	思考の異常、感情の異常、意欲の異常について説明できる。	
4	検査法	精神科で診断に使用する検査について理解する。	
5	治療法	精神疾患の治療(身体療法、精神療法、薬物療法)について学ぶ。	
6	統合失調症	統合失調症の原因、症状、治療について理解する。	
7	統合失調症	統合失調症の原因、症状、治療について学ぶ。	
8	気分障害	気分障害の原因、症状、治療について理解する。	
9	気分障害	気分障害の原因、症状、治療について学ぶ。	
10	神経症性障害	神経症性障害の原因、症状、治療について理解する。	
11	神経症性障害	神経症性障害の原因、症状、治療について学ぶ。	
12	国家試験問題演習①	国家試験に出ている精神医学の問題に取り組む。	
13	国家試験問題演習②	国家試験に出ている精神医学の問題に取り組む。	
14	国家試験問題演習③	国家試験に出ている精神医学の問題に取り組む。	
15	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 増補版 参考書:精神神経疾患 ビジュアルブック Gakken			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:30点(小テスト) 70点(定期試験)		精神医学の理解を深め、国家試験の問題に慣れていきましょう。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		精神医学とは精神疾患の原因、精神機能の異常、各疾患の医学的視点から見た病院、症状、治療などを学ぶ学問である。心の障害について説明する。	①精神医学とは何かを学ぶ ②精神疾患の原因、歴史について学ぶ ③精神機能の異常について理解する ④各種精神疾患について理解する ⑤国家試験の傾向について学ぶ
精神医学 (※後期15回)			
2単位	30回		
作業療法学科:◎限部智之 理学療法学科:岡村安優			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
16	器質性精神障害	器質性精神障害について学ぶ。	
17	認知症	認知症の原因、症状、治療について理解する。	
18	痙攣性疾患(てんかん)	てんかんの原因、症状、治療について説明できる。	
19	ストレス関連障害	ストレス関連障害について学ぶ。	
20	摂食障害	摂食障害について説明できる。	
21	映画による疾患学習	映画を通して疾患や対象者の気持ちなどの理解を深める。	
22	映画による疾患学習	映画を通して疾患や対象者の気持ちなどの理解を深める。	
23	精神作用物質使用による精神障害 および行動の障害	アルコール依存症や、その他の精神作用物質について学ぶ。	
24	発達障害	発達障害について説明できる。	
25	小児期の情動・行動障害、知的障害	小児期の情動・行動障害、知的障害について理解する。	
26	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害について学ぶ。	
27	国家試験問題演習①	国家試験に出ている精神医学基礎の問題にあたり、解けることができる。	
28	国家試験問題演習②	国家試験に出ている精神医学基礎の問題にあたり、解けることができる。	
29	国家試験問題演習③	国家試験に出ている精神医学基礎の問題にあたり、解けることができる。	
30	理解度の確認	筆記試験にて判定する	
教科書・参考書・資料			
教科書:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 増補版 参考書:精神神経疾患 ビジュアルブック Gakken			
判定基準/割合		履修上の留意点	
乗点:30点(小テスト) 70点(定期試験)		精神医学の理解を深め、国家試験の問題に慣れていきましょう。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門基礎分野		代表的な心理療法や心理検査について学習すると共に、臨床心理学と関わり深い発達心理学や障害者心理について学び、メンタルケアの基礎的な知識を身につける。	臨床心理学の様々な理論を知り、臨床心理学的な患者理解の方法を理解する。心理療法および心理査定の方法や理論を知り、その適応について理解する。
臨床心理学			
1単位	15回		
非常勤講師：渡邊馨 作業療法学科：◎限部智之 理学療法学科：岡村安優			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	臨床心理学とは何か	国試出題基準「臨床心理学」について出題内容について概観し、学習事項をガイダンスする。	
2	臨床心理学の歴史 心理療法総論	臨床心理学の歴史、心理療法の適応について理解する。	
3	生涯発達理論・障害の心理	生涯発達理論と障害の心理について学習する。	
4	心理検査・投影法(1)	性格検査のうち、投影法であるロールシャッハテスト、TAT、PFスタディについて学習する	
5	心理検査・投影法(2)	性格検査のうち、投影法であるSCTについて学習する	
6	心理検査・質問紙法	性格検査のうち、質問紙法であるMMPI、YGテストについて学習する	
7	心理検査・知能検査	知能検査の種類や内容について理解する。	
8	心理療法(1)	精神分析療法(転移逆転移、防衛機制など)について学習する。	
9	心理療法(2)	認知行動療法について学習する。	
10	心理療法(3)	森田療法、内観療法、集団精神療法などについて学習する。	
11	国家試験対策問題演習①【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
12	国家試験対策問題演習②【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
13	国家試験対策問題演習③【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
14	国家試験対策問題演習④【限部】	問題演習を通して学習到達度を確認し、今後の課題を明確にする	
15	問題演習まとめ【限部】	試験を通して理解度を確認する	
教科書・参考書・資料			
資料を配布します。 参考書は、講義ごとに紹介します。			
判定基準／割合		履修上の留意点	
平常点：10点 棄点：90点(本試験にて採点)			

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		・国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念(自立支援・就労支援等も含む)、社会福祉論、地域包括ケアシステムを理解し、リハビリテーション専門職が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。 ・地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。	・リハビリテーションの理念を理解する ・地域におけるリハビリテーション専門職の役割を理解する ・地域における共生の取り組み、多職種連携の仕組み、意義を理解する ・地域づくりに向けたワークショップの経験を通して地域課題やその解決策について議論することができる
リハビリテーション概論Ⅱ (※ 前期15回)			
2単位	30回		
理学療法学科:◎藤原正之 作業療法学科:早川みこ			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション 地域に関する活動のまとめ	リハビリテーション概論Ⅱの概略、リハビリテーション概論Ⅰで学んだ復習 リハ概論Ⅰの地域活動と関連させ、地域に関する活動を調べる	
2	地域活動	地域に関する活動を調べることで実情を知ることができる	
3	地域活動	地域に関する活動を調べることで実情を知ることができる	
4	地域づくり	地域課題について考える 地域課題についてわからないところを調べる 必要な知識をまとめる	
5	地域づくり	地域課題について考える 地域課題についてわからないところを調べる 必要な知識をまとめる	
6	地域づくり	地域課題に対して自分たちで解決策を考える その中でPT/OTの役割について考えることができる	
7	地域リハビリテーションの実際①	臨床現場で活動しているPT/OTの講義を通して、意義や役割を考えることができる	
8	地域リハビリテーションの実際②	臨床現場で活動しているPT/OTの講義を通して、意義や役割を考えることができる	
9	地域リハビリテーションの実際③	臨床現場で活動しているPT/OTの講義を通して、意義や役割を考えることができる	
10	多職種連携	多職種連携とは(意義・必要性 他) 事例検討に向けて各職種の役割を理解する	
11	多職種連携	事例検討	
12	多職種連携	事例検討	
13	多職種連携	事例検討	
14	多職種連携	事例検討	
15	発表	事例検討の発表・質疑応答	
教科書・参考書・資料			
適宜配布資料			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点 100点 グループワーク・発表 70% レポート・感想 30%		授業中は、積極的に取り組みましょう。また、グループワークは、意欲的に参加しましょう。 リハビリテーション概論Ⅰで学んだことを復習しておいてください	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門基礎分野		<ul style="list-style-type: none"> <li>国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念(自立支援・就労支援等も含む)、社会福祉論、地域包括ケアシステムを理解し、リハビリテーション専門職が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。</li> <li>地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーションの理念を理解する</li> <li>地域におけるリハビリテーション専門職の役割を理解する</li> <li>地域における共生の取り組み、多職種連携の仕組み、意義を理解する</li> <li>地域づくりに向けたワークショップの経験を通して地域課題やその解決策について議論することができる</li> </ul>
リハビリテーション概論Ⅱ (※ 後期15回)			
2単位	30回		
理学療法学科:藤原正之 作業療法学科:早川のみこ 非常勤講師			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	地域に出てみよう	オリエンテーション・準備	
2	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
3	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
4	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
5	地域に出てみよう	君津市の地域活動の実際を体験できる	
6	地域に出てみよう	地域活動の振り返り	
7	多職種連携/事前オリエンテーション	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
8	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
9	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
10	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
11	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
12	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
13	多職種連携/協同学習	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
14	多職種連携/振り返り	医療・介護・福祉に関連する職種の相互理解をする	
15	まとめ	地域や多職種における意義や役割の理解	
教科書・参考書・資料			
適宜配布資料			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点 100点 グループワーク・発表 70% レポート・感想 30%		授業中は、積極的な受講、質疑、またグループ活動は、主体的に参加しましょう。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門分野		作業療法評価において対象者の全身状態を把握できるようになるためバイタルサイン、関節可動域、筋緊張、知覚、協調性、反射、脳神経、筋力検査に関する知識・技術を修得する	<input type="checkbox"/> 身体機能領域の各評価法の目的を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における測定方法・手順を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における判断基準を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における記録の方法を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における実施上の注意を説明できる
作業療法評価学Ⅰ (※ 身体機能・構造の評価)			
1単位	15回		
作業療法学科:◎早川みこ 兼子健一, 金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	バイタルサイン 【金谷】P50~	バイタルサインの目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
2	ROM・筋緊張① 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~132	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 肩甲帯・肩関節・肘・前腕の関節のROM測定 <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
3	ROM・筋緊張② 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~133	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 手・手指・股・膝・足関節のROM測定 <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
4	ROM・筋緊張③ 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~134	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 体幹のROM測定、その他の方法のROM測定 <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
5	ROM・筋緊張④ 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~135	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
6	実技試験①	1~5回の復習テスト(実技)	
7	反射・姿勢反射・脳神経検査 【早川】P133-153 162-168	反射検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
8	知覚検査 【早川】P111-123	感覚検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
9	協調性検査 【早川】P154-161	協調性検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
10	実技試験②	7~9回の復習テスト(実技)	
11	徒手筋力測定(MMT)① 【兼子】P93-110	徒手筋力検査法の意義と目的を説明できる 徒手筋力検査法の表示・測定法、留意点を説明できる	
12	徒手筋力測定(MMT)② 【兼子】P93-110	徒手筋力検査法の意義と目的を説明できる 徒手筋力検査法の表示・測定法、留意点を説明できる	
13	徒手筋力測定(MMT)③ 【兼子】P93-110	徒手筋力検査法の意義と目的を説明できる 徒手筋力検査法の表示・測定法、留意点を説明できる	
14	徒手筋力測定(MMT)④ 【兼子】PP93-110	徒手筋力検査法の意義と目的を説明できる 徒手筋力検査法の表示・測定法、留意点を説明できる	
15	まとめテスト(定期試験)	1~14回の定期試験(筆記)	
教科書・参考書・資料			
能登真一 他(編):標準作業療法学第4版 医学書院2024			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点(筆記)100点 金谷 30点 早川 40点 兼子 30点		授業には、動きやすい恰好(ズボン・ジャージなど)で参加してください。 講義前に物品準備・環境設定を行ってください。 学生同士での接触があるので常に爪は短く、また衛生面に留意して参加してください。	

OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門分野 作業療法評価学Ⅱ (※疾患別評価)		前期に学習した全般的な身体機能面の評価に加え、各疾患を対象とした評価を学習します。 身体障害分野で作業療法士が多く用いる検査・評価を中心に、その意義、目的、方法を理解を深めていきます。	◎主に身体機能作業療法の分野で使用される評価法に関する知識および技法を学習する。 ◎対象者の作業に影響する機能・構造の利点と課題を同時に評価し、治療・支援に結び付けられるような視点を養う。 ◎作業療法評価の対象と過程を理解する ◎各評価の手順、実施上の注意、判定を説明できる
1単位	15回		
作業療法学科:◎兼子健一, 原悠平			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	脳血管障害の評価① JCS, GCS, MAS, SIAS, BRS 【兼子】P274-313	☑脳血管障害の評価すべき項目を理解する ☑脳血管障害に対する評価方法を実践できる	
2	脳血管障害の評価② JCS, GCS, MAS, SIAS, BRS 【兼子】P274-313	☑脳血管障害の評価すべき項目を理解する ☑脳血管障害に対する評価方法を実践できる	
3	脳血管障害の評価② JCS, GCS, MAS, SIAS, BRS 【兼子】P274-313	☑脳血管障害の評価すべき項目を理解する ☑脳血管障害に対する評価方法を実践できる	
4	脊髄損傷の評価② ザンコリーの分類, ASIA 【兼子】P314-329	☑頸髄損傷の障害像を説明できる ☑頸髄損傷に対する評価方法を実践できる	
5	脊髄損傷の評価② ザンコリーの分類, ASIA 【兼子】P314-329	☑頸髄損傷の障害像を説明できる ☑頸髄損傷に対する評価方法を実践できる	
6	上肢機能の検査 STEF, MFT 【兼子】P204-211	☑上肢機能の定義について理解できる ☑STEF・MFTのやり方を覚えることができる	
7	上肢機能の検査 STEF, MFT 【兼子】P204-211	☑上肢機能の定義について理解できる ☑STEF・MFTのやり方を覚えることができる	
8	中間テスト 【兼子】	1回~7回 実技テスト	
9	高次脳機能評価① 【原】P439-465	☐高次脳機能とその障害について理解できる ☐注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解、実践できる	
10	高次脳機能評価② 【原】P439-466	☐高次脳機能とその障害について理解できる ☐注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解、実践できる	
11	高次脳機能評価③ 【原】P439-467	☐高次脳機能とその障害について理解できる ☐注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解、実践できる	
12	高次脳機能評価④ 【原】P439-468	☐高次脳機能とその障害について理解できる ☐注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解、実践できる	
13	高次脳機能評価⑤ 【原】P439-469	☐高次脳機能とその障害について理解できる ☐注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解、実践できる	
14	高次脳機能評価⑥ 【原】P439-470	☐高次脳機能障害と適用する検査について情報の整理ができる	
15	まとめ 【原】	1回~14回のまとめ	
教科書・参考書・資料			
教科書:能登真一ほか(編):標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学, 第4版, 医学書院, 2023.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
兼子 素点:50点 原 素点:50点		○作業療法評価学実習Ⅱと講義時間が連続する科目になります。 講義前に物品準備, 環境設定は済ませておいてください。 ○アクセサリ類は外すこと。 ○ジャージ等動きやすい服装で出席してください。	



OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門分野		発達領域の対象児を目の前にした時に、どのような視点で関わっていくのか。基本的な発達理論とともに、標準化された評価・検査法の利用は、対象児の理解の手助けとなる。 本講義では、今まで学習してきた発達理論を用いて、子どもを観察・評価することの体験とともに、各種発達検査についてその概要を知ることを目指す	◎作業療法の対象児を適切に評価する手段のための基本的な知識・技術を知る ◎各種発達検査の概要を理解する ◎評価で得た情報をもとに、その対象児の問題となる点を導き出す体験をする
作業療法評価学Ⅲ (※ 発達領域)			
1単位	15回		
作業療法学科: 金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション 発達領域の評価総論	○本講義の予定、概要について理解する ○発達領域の評価について大まかな流れを理解する	
2	発達領域の評価項目 作業療法に特異な発達検査	○発達領域における一般的な評価項目について確認する ○作業療法の領域で特異的に用いられる発達検査について、その概要を理解する	
3	感覚統合の発達について①	○作業療法の理論のひとつである「感覚統合理論」の概略を知る ○評価用紙を用いて、自身の感覚統合の発達状況について知る体験をする	
4	感覚統合の発達について②	○作業療法の理論のひとつである「感覚統合理論」の概略を知る ○感覚統合機能の発達を評価する方法を知る	
5	感覚統合臨床観察法①	○感覚統合の評価のひとつである「臨床観察法」の概略を学習し、実際に検査で用いられる項目を体験する。	
6	感覚統合臨床観察法②	○感覚統合の評価のひとつである「臨床観察法」の概略を学習し、実際に検査で用いられる項目を体験する。	
7	脳性麻痺児の発達と評価① 類型と発達の特徴	○脳性麻痺の類型とそれぞれの特徴について理解する ○脳性麻痺児の発達過程について理解する	
8	脳性麻痺児の発達と評価② 心身機能・身体構造、活動の評価	○脳性麻痺児の姿勢・運動機能の観察ポイントを理解する ○脳性麻痺児のADLの特徴、観察ポイントを理解する	
9	脳性麻痺児の発達と評価③ GMFCS-ER	○脳性麻痺児の粗大運動機能評価を復習する ○各レベルにおける介助方法などを知る	
10	その他の運動発達障害の評価	○筋ジストロフィー症、二分脊椎症など、運動発達の遅れがみられる児の特徴と観察のポイントを学ぶ	
11	その他の心理・行動発達障害の評価	○自閉症スペクトラム症、注意欠陥／多動性障害、学習障害、知的障害など、心理・行動発達の遅れがみられる児の特徴と観察のポイントを学ぶ	
12	発達検査について 発表①	○各種発達検査をグループで調べてきて発表を行う	
13	発達検査について 発表②	○各種発達検査をグループで調べてきて発表を行う	
14	国家試験問題演習 (グループワーク)	○発達領域の疾患および、評価法についての国家試験問題の演習を行う ○問題解答、解説作成、解説発表を学生間で行う	
15	まとめ 学習理解度確認	○試験を通じて理解度を確認する	
教科書・参考書・資料			
教科書: 神作一実(編): 作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版, メジカルビュー, 2015. 能登真一ほか(編): 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学, 第3版, 医学書院, 2017. 参考書: 岩崎清隆, 岸本光夫(著): 発達障害の作業療法 実践編, 第2版, 三輪書店, 2015. 土田玲子(監修): 感覚統合Q&A, 改訂第2版, 協同医学出版社, 2013.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点: 70点(後期試験) 平常点: 30点(課題発表・提出)		○講義では、教科書・配布プリントを使用します。必ず持ってきてください。 また、前期に開講した「発達領域作業療法学Ⅰ」および「人間発達学」の教科書・プリントも持ってきてください。 ○グループワークを実施する回は、ディスカッションしやすいように座席を並べ替えて下さい。 ○5-6回目では、評価法の体験をします。動きやすい服装で来て下さい。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門分野 作業療法評価学Ⅳ (※精神領域)		精神障害領域における評価法について説明する。そのうえで、実習で実践できるよう講義する。	①精神科作業療法評価概要を理解する。 ②観察、面接を理解し実践できる。 ③評価の流れを理解する。 ④評価内容を理解する。
1単位 8回			
作業療法学科:限部智之			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	精神障害者を取り巻く環境・診療報酬	精神障害者を取り巻く環境と診療報酬を学ぶ。	
2	評価の流れ	評価の流れと情報収集について理解できる。	
3	情報収集	情報収集について学ぶ。	
4	観察	観察について理解できる。	
5	面接	面接について学ぶ。	
6	集団の評価	集団の評価や治療的意義、観察の視点を理解できる。	
7	症例検討	症例を通して評価を体験する。	
8	理解度確認	試験を通して理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
教科書: ゴールドマスター 精神障害作業療法 第3版 メジカルビュー社 参考書: 精神障害と作業療法 新版 山根寛 三輪書店			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:小テスト30点 素点:定期テスト70点		精神科領域の評価の流れと内容を理解し、実習へと繋げていきましょう。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門分野		作業療法評価において対象者の全身状態を把握できるようにするためバイタルサイン、関節可動域、筋緊張、知覚、協調性、反射、脳神経、筋力検査に関する知識・技術を修得する	<input type="checkbox"/> 身体機能領域の各評価法の目的を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における測定方法・手順を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における判断基準を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における記録の方法を説明できる <input type="checkbox"/> 各評価における実施上の注意を説明できる
作業療法評価学実習Ⅰ (※ 身体機能・構造の評価)			
1 単位	15回		
作業療法学科:◎早川みこ 兼子健一, 金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	バイタルサイン 【金谷】P50~	バイタルサインの目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる 血圧測定・脈拍測定ができる【持ち物・服装:アナログ腕時計・Tシャツ】	
2	ROM・筋緊張① 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~132	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 肩甲帯・肩関節・肘・前腕の関節のROM測定 <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
3	ROM・筋緊張② 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~133	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 手・手指・股・膝・足関節のROM測定 <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
4	ROM・筋緊張③ 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~134	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 体幹のROM測定、その他の方法のROM測定 <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
5	ROM・筋緊張④ 【金谷】ROM P69~92 筋緊張 P124~135	関節可動域の意義と目的、道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる <input type="checkbox"/> 基本軸・移動軸に沿ってゴニオメーター(角度計)をあてることができる	
6	実技試験①	1~5回の復習テスト(実技)	
7	反射・姿勢反射・脳神経検査 【早川】P133-153 162-168	感覚検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる 協調性検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
8	知覚検査 【早川】P111-123	反射検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
9	協調性検査 【早川】P154-161	脳神経検査の目的・道具の使用方法・注意事項・判定基準を理解し、説明できる	
10	実技試験②	7~9回の復習テスト(実技)	
11	徒手筋力測定(MMT)① 【兼子】P93-110	<input checked="" type="checkbox"/> 筋力検査法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査の意義と目的を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査法の表示および測定法を説明できる	
12	徒手筋力測定(MMT)② 【兼子】P93-110	<input checked="" type="checkbox"/> 筋力検査法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査の意義と目的を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査法の表示および測定法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査を実施できる(肩関節、肘関節)	
13	徒手筋力測定(MMT)③ 【兼子】P93-110	<input checked="" type="checkbox"/> 筋力検査法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査の意義と目的を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査法の表示および測定法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査を実施できる(手関節、手指)	
14	徒手筋力測定(MMT)④ 【兼子】PP93-110	<input checked="" type="checkbox"/> 筋力検査法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査の意義と目的を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査法の表示および測定法を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 徒手筋力検査を実施できる(下肢)	
15	実技試験③	11~14回の復習テスト(実技)	
教科書・参考書・資料			
能登真一 他(編):標準作業療法第4版 医学書院2024			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点(実技試験)100点 (金谷40点 早川30点 兼子30) 実技試験3回実施 各回とも60%以上で合格 総合判定は、3回の試験を合計し算出		授業には、動きやすい恰好(ズボン・ジャージなど)で参加してください。 講義前に物品準備・環境設定を行ってください。 学生同士での接触があるので常に爪は短く、また衛生面に留意して参加してください。	

OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門分野 <b>作業療法評価学実習Ⅱ</b> (※疾患別評価)   単位 15回 作業療法学科:◎兼子健一, 原悠平		対象者の状態を把握するためには, 前期に学習した全般的な身体機能面の評価のみならず, 対象者の患っている疾患に則した評価も必要となる。 本講義では, 各疾患を対象とした評価を学習していく。	◎主に身体機能作業療法の分野で使用される評価法に関する知識および技法を学習する。 ◎対象者の作業に影響する機能・構造の利点と課題を同時に評価し, 治療・支援に結び付けられるような視点を養う。 ◎作業療法評価の対象と過程を理解する ◎各評価の手順, 実施上の注意, 判定を説明できる
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	脳血管障害の評価① JCS, GCS, MAS, SIAS, BRS 【兼子】P274-313	<input checked="" type="checkbox"/> 脳血管障害の評価すべき項目を理解する <input checked="" type="checkbox"/> 脳血管障害に対する評価方法を実践できる	
2	脳血管障害の評価② JCS, GCS, MAS, SIAS, BRS 【兼子】P274-313	<input checked="" type="checkbox"/> 脳血管障害の評価すべき項目を理解する <input checked="" type="checkbox"/> 脳血管障害に対する評価方法を実践できる	
3	脳血管障害の評価② JCS, GCS, MAS, SIAS, BRS 【兼子】P274-313	<input checked="" type="checkbox"/> 脳血管障害の評価すべき項目を理解する <input checked="" type="checkbox"/> 脳血管障害に対する評価方法を実践できる	
4	脊髄損傷の評価② ザンコリーの分類, ASIA 【兼子】P314-329	<input checked="" type="checkbox"/> 頭頸損傷の障害像を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 頭頸損傷に対する評価方法を実践できる	
5	脊髄損傷の評価② ザンコリーの分類, ASIA 【兼子】P314-329	<input checked="" type="checkbox"/> 頭頸損傷の障害像を説明できる <input checked="" type="checkbox"/> 頭頸損傷に対する評価方法を実践できる	
6	上肢機能の検査 STEF, MFT 【兼子】P204-211	<input checked="" type="checkbox"/> 上肢機能の定義について理解できる <input checked="" type="checkbox"/> STEF・MFTのやり方を覚えることができる	
7	上肢機能の検査 STEF, MFT 【兼子】P204-211	<input checked="" type="checkbox"/> 上肢機能の定義について理解できる <input checked="" type="checkbox"/> STEF・MFTのやり方を覚えることができる	
8	中間テスト 【兼子】	1回~7回 実技テスト	
9	高次脳機能評価① 【原】P439-466	<input type="checkbox"/> 高次脳機能とその障害について理解できる <input type="checkbox"/> 注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解, 実践できる	
10	高次脳機能評価② 【原】P439-466	<input type="checkbox"/> 高次脳機能とその障害について理解できる <input type="checkbox"/> 注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解, 実践できる	
11	高次脳機能評価③ 【原】P439-466	<input type="checkbox"/> 高次脳機能とその障害について理解できる <input type="checkbox"/> 注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解, 実践できる	
12	高次脳機能評価④ 【原】P439-467	<input type="checkbox"/> 高次脳機能とその障害について理解できる <input type="checkbox"/> 注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解, 実践できる	
13	高次脳機能評価⑤ 【原】P439-466	<input type="checkbox"/> 高次脳機能とその障害について理解できる <input type="checkbox"/> 注意障害・半側空間無視・記憶障害・失行・失語・失認・遂行機能障害・社会的行動障害について分類と評価方法(検査方法・結果の解釈)を理解, 実践できる	
14	高次脳機能評価⑥ 【原】P439-467	<input type="checkbox"/> 高次脳機能障害と適用する検査について情報の整理ができる	
15	まとめテスト 作業療法学科教員	9回~14回 実技テスト	
教科書・参考書・資料			
教科書:能登真一ほか(編):標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学, 第4版, 医学書院, 2023.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:10点(出席点) 満点:90点 (中間テスト 50%) (まとめテスト 50%)		<input type="checkbox"/> 作業療法評価学Ⅱと講義時間が連続する科目になります。 <input type="checkbox"/> 講義前に物品準備, 環境設定は済ませておいてください。 <input type="checkbox"/> 爪は切り, アクセサリー類は外すこと。 <input type="checkbox"/> ジャージ等動きやすい服装で出席してください。	

OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門分野		主に精神分野で用いられる観察・面接・検査について、学生同士で実施体験をする。 また、記録の練習をする。	各評価の目的、実施方法、留意点について理解し、適切に実施できる。
作業療法評価学実習Ⅲ			
1単位	15回		
作業療法学科:限部智之			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	観察①	観察の目的、実施方法、留意点を理解し、実施することができる。	
2	観察②	観察の目的、実施方法、留意点を理解し、実施することができる。	
3	面接①	面接の目的、実施方法、留意点を理解し、実施することができる。	
4	面接②	面接の目的、実施方法、留意点を理解し、実施することができる。	
5	記録①	記録の目的、実施方法、留意点を学び、記録を行うことができる。	
6	記録②	記録の目的、実施方法、留意点を学び、記録を行うことができる。	
7	NPI興味チェックリスト	NPI興味・関心チェックリストの目的、実施方法、留意事項について学ぶ。	
8	COPM	COPMの目的、実施方法、留意事項について理解する。	
9	OSA-II	OSA-IIの目的、実施方法、留意事項について学ぶ。	
10	統合失調症の評価法①	統合失調症の評価法について目的、実施方法、留意事項を理解できる。	
11	統合失調症の評価法②	統合失調症の評価法について目的、実施方法、留意事項を学ぶ。	
12	気分障害の評価法	気分障害の評価法について目的、実施方法、留意事項を理解する。	
13	生活技能訓練法(SST)	生活技能訓練法(SST)について、目的、実施方法、留意事項を学ぶ。	
14	認知行動療法(CBT)	認知行動療法(CBT)について、目的、実施方法、留意事項を理解できる。	
15	まとめ(定期試験)	試験を通して理解度を確認する。	
教科書・参考書・資料			
教科書: ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法 第3版 メジカルビュー社 標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:レポート30点 素点:定期試験70点		評価の目的や実施方法、留意事項を把握して活用できるようになりましょう。資料やレポートは、整理すると効率が良くなります。	

OT2年 前期		講義概要	一般目標
専門分野		発達領域の作業療法では、対象児への直接的支援とともに、対象児を取り巻く人々、環境への支援も重要になってくる。この講義の中では、ヒトの正常発達を学ぶとともに、生活を脅かす原因となる疾患や障害の知識を講義する。また、子どもの作業の中心となる、「遊び」について自身の発達の振り返りをしながら学習していく。	◎作業療法の視点から、発達や各疾患の概要を理解する。 ◎発達領域の作業療法に必要となる遊びについて理解する。
発達領域作業療法学Ⅰ (※小児科学,小児の作業)			
1単位	10回		
作業療法学科:金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	オリエンテーション 発達領域の作業療法の対象について	○講義の予定・概略について理解する。 ○発達領域の作業療法で関わる対象(疾患・状態像)の大まかな状況を知る。 ○発達領域の作業療法で提供されるサービスについて知る	
2	小児科学概論(諸発達のまとめ) 新生児・未熟児疾患 先天異常と遺伝病	○発達のおおまかな流れについて再確認する ○新生児・未熟児疾患にどのようなものがあるか知る ○先天異常と遺伝病にどのようなものがあるか知る	
3	運動発達障害系の対象児	○脳性麻痺, てんかんなどの中枢神経系の疾患について知る	
4	運動発達障害系の対象児 心理・行動発達障害系の対象児	○神経・筋疾患にどのようなものがあるか知る ○発達障害にどのようなものがあるか知る ○小児の心理・精神的疾患にどのようなものがあるか知る	
5	心理・行動発達障害系の対象児	○発達障害にどのようなものがあるか知る ○小児の心理・精神的疾患にどのようなものがあるか知る	
6	重症心身障害児	○重症心身障害児の概要について知る	
7	1~6回分 学習理解度確認	試験を通じて理解度を確認する。	
8	子どもにとっての遊びとは 遊びの発達の意義	○遊びとその意義について理解する ○哲学的に遊びを考察する	
9	遊びの楽しさの分析 グループワーク 「今までの遊びの何が楽しかったのか」	○遊びを分析するにあたり必要な、遊びの要素の例を知る ○グループワークを通して、今までしてきた自分の遊びについて分析する ○また、集団としてどのような遊びの傾向があるのか分析する	
10	まとめ 遊びの種類と遊具	【体験・実技】 ○支援で使われる教材, 玩具に触れることで、作業療法支援の一端を知る ○それぞれの遊具について、その楽しさや効果について分析する	
教科書・参考書・資料			
教科書:教科書:神作一実(編):作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版,メジカルビュー,2015. 参考書:岩崎清隆,岸本光夫(著):発達障害の作業療法 実践編,第2版,三輪書店,2015. 岩崎清隆(著):発達障害の作業療法 基礎編,第2版,三輪書店,2015. 富田豊(著):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学,第4版,医学書院,2013. 土田玲子,小西紀一(監訳):感覚統合とその実践,第2版,協同医学出版社,2006.			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点:80点 平常点:20点		○講義では、教科書・配布プリントを使用します。必ず持ってきてください。 また、同時期に開講している「人間発達学」の教科書・プリントも持ってきてください。 ○グループワークを実施回は、ディスカッションしやすいように座席を並べ替えて下さい。 ○10回目は、遊びの体験をします。動きやすい服装で来てください。	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門分野		本講義では日常生活関連活動について理解し、日常生活関連活動のみ方・運動学的視点・評価方法・記録方法などを修得して作業療法士としての視点を持つことで3年時の疾患別治療学の基礎となるよう学ぶ。	①疾病の種類にかかわらず、作業療法士としてADLに介入していく上での共通に習得すべき概念、知識及び技術を学ぶ。 ②各活動の分析と対応課題を整理し、支援の視点を学ぶ。
日常生活関連活動学 (※ 前期15回)			
3単位	30回		
作業療法学科: 武井亜由美, 早川るみこ			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	ADLの概念と作業療法の役割	ADLの概念、範囲、人の生活の中でのADLの位置づけの理解、ADLに対する基本的な作業療法実践の流れを理解し伝えることができる	
2	ADL別の対応課題と援助の視点 食事活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
3	ADL別の対応課題と援助の視点 排泄活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
4	ADL別の対応課題と援助の視点 更衣活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
5	ADL別の対応課題と援助の視点 整容活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
6	ADL別の対応課題と援助の視点 入浴活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
7	ADL別の対応課題と援助の視点 コミュニケーション活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
8	ADL別の対応課題と援助の視点 家事活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
9	ADL別の対応課題と援助の視点 外出・余暇活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる	
10	ADL別の対応課題と援助の視点 スポーツ活動	ADLを遂行するための心身機能、影響因子、各活動の障害、各活動別に支援の視点を理解できる 障がい者スポーツの意義と理念、日本障がい者スポーツ協会のビジョンと施策、障害者スポーツ施策、障害者スポーツへの関り(指導者として、セラピストとして)	
11	ADL別の対応課題と援助の視点 基本動作	基本動作における運動学的視点を理解できる。	
12	ADL別の対応課題と援助の視点【演習】 基本動作	疾患別移動・移乗動作の方法を理解し実践できる	
13	ADL別の対応課題と援助の視点【演習】 基本動作	疾患別移動・移乗動作の方法を理解し実践できる	
14	ADL別の対応課題と援助の視点【演習】 基本動作	疾患別移動・移乗動作の方法を理解し実践できる	
15	まとめ 学習の理解度の確認	1～14回で学んだ内容について説明できる。	
教科書・参考書・資料			
教科書: 作業療法学全書改訂第3版 第11巻 作業療法技術学3日常生活活動/酒井ひとみ編集/協同医学出版 参考書: 作業療法ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動(ADL)/長崎重信監修、木之瀬隆編集/MEDICAL VIEW PT・OTビジュアルテキスト ADL/柴喜嵩、下田信明編集/羊土社			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点 100点 *60点未満のものは再試験対象とする *前後期の得点を平均して学年末得点とする		・演習の際は動きやすい服装で参加すること ・積極的に授業に参加しよう ・できるだけ事前の準備、復習をしよう	

OT2年 通年		講義概要	一般目標
専門分野		日常生活活動及びその関連活動(以下ADL)について、前期で学習した基本的知識・概要を活かして、ADLの評価について学びます。 ADL評価として①観察評価・動作分析②数値的評価を中心に学習します。 また3年次の治療学につながる支援方法についても触れていきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL評価とは何かを説明することができる。</li> <li>基本動作やADL動作の動作分析を行い、評価することができる。</li> <li>ADL、IADLについて、評価様式を用いて評価することができる。</li> <li>ADLの支援について考えることができる。</li> </ul>
日常生活関連活動学 (※ 後期15回)			
3単位	30回		
作業療法学科:武井亜由美, 早川みこ			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	ADLの評価【武井】	ADL障害の捉え方、作業療法におけるADL自立の理解、ADLの評価に関する知識、技術を習得する	
2	ADLの評価【武井】	ADL障害の捉え方、作業療法におけるADL自立の理解、ADLの評価に関する知識、技術を習得する	
3	ADLの評価方法【武井】	ADLの評価様式の理解と使用方法(FIM, BIなど)	
4	ADLの評価方法【武井】	ADLの評価様式の理解と使用方法(FIM, BIなど)	
5	ADLの評価方法【武井】	ADLの評価様式の理解と使用方法(FIM, BIなど)	
6	食事動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
7	整容動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
8	更衣動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
9	更衣動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
10	排泄動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
11	排泄動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
12	入浴動作【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
13	IADLの活動【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
14	IADLの活動【早川】	各疾患における評価(動作分析)と福祉用具の選定ができる	
15	まとめ【武井・早川】	定期試験 後期の振り返りを行い、自己の課題を再確認する	
教科書・参考書・資料			
教科書持参:①ゴールドマスターテキスト:日常生活活動 ②羊土社:ADL ③医学書院:作業療法評価学 参考文献:①協同医書出版:日常生活活動 ②三輪書店:ADL作業療法の戦略			
判定基準/割合		履修上の留意点	
素点(筆記試験) 50点 (武井35% 早川65%) 平常点(レポート) 50点		動きやすい格好で参加してください。 各回で持参するものがあります。別紙コマシラバスでインフォメーションします。	



OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門分野 生活支援環境学		福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識について学習。超高齢社会の中を生きる者として知っておくべき福祉一般の知識を習得します。福祉住環境コーディネータ3級の受験に対応する内容となっています。	①高齢者や障がい者に対して住みやすい住環境を提案ができる知識を習得する。 ②福祉用具や諸施策情報などについて助言ができる知識を習得する。
1単位	8回		
作業療法学科:兼子健一			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
1	暮らしやすい生活環境を目指して	・少子高齢化社会と共生社会への道 ・福祉住環境整備の重要性・必要性 ・在宅生活の維持とケアサービス	
2	健康と自立を目指して	・高齢者の健康と自立 ・障害者が生活の不自由を克服する道	
3	バリアフリーとユニバーサルデザイン	・バリアフリーとユニバーサルデザインを考える ・生活を支える様々な用具	
4	安全・安心・快適な住まい	・住まい整備のための基本技術 ・生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい	
5	安心できる住生活とまちづくり	・ライフスタイルの多様性と住まい ・安心できる住生活 ・安心して暮らせるまちづくり	
6	問題演習	福祉住環境コーディネーター 検定試験 過去問①	
7	問題演習	福祉住環境コーディネーター 検定試験 過去問②	
8	理解度確認	筆記試験で理解度を確認する	
教科書・参考書・資料			
・東京商工会議所 編:福祉住環境コーディネーター 検定試験® 3級公式テキスト 改定6版, 東京商工会議所。 ・NIPS合格対策プロジェクト 編:福祉住環境コーディネーター 3級 過去問題集。			
判定基準/割合		履修上の留意点	
満点:90点 平常点:10点		・検定、資格試験の費用は別途必要となります。検定、資格試験の受験は義務ではありませんが、今後の国家試験対策、就職活動を考えると強く推奨します。 ・受験料:3級 4400円 (自己負担)	

OT2年 後期		講義概要	一般目標
専門分野		臨床現場において、実習指導者の指導のもとに個別に学習を行う。	◎地域リハビリテーションの目的や役割を理解する
地域リハビリテーション実習			
1単位	45時間		
作業療法学科:金谷優志			
項目		この講義で学ぶこと・行動目標	
行動目標		◎地域リハビリテーションの目的や役割を理解する ◎対象者のニーズの多様性に応える地域リハビリテーションの実態を理解する ◎実習指導者の臨床態度・技能・思考を見学し、可能なものは模倣する ◎デイリーノートを作成できるようになる ◎作業療法の目的、対象者の問題点と実施プログラムの効果・狙いの結びつきを理解する ◎学んだことや疑問を実習指導者に伝え、ディスカッションして理解を深める	
実習時間		臨地学習8時間+在宅学習1時間 × 5日間 = 45時間	
基本技能確認 OSCEO		OSCEOを通し、基本技能の習得度を確認する	
地域リハビリテーション実習 1日目		実習の概要や実習施設の概要を理解する	
地域リハビリテーション実習 2日目		地域でのリハビリテーション・作業療法の役割を理解する	
地域リハビリテーション実習 3日目		対象者によるニーズの多様性を理解する	
地域リハビリテーション実習 4日目		対象者を中心とした他職種協働を理解する	
地域リハビリテーション実習 5日目		対象者にとって地域とは何か？ 対象者が地域で作業療法を行う意義は何か？	
提出課題		・デイリーノート ・ループリク評価表 ・実習経験チェックリスト	
教科書・参考書・資料			
才藤栄一 監:臨床技能とOSCE 第2版補訂版 コミュニケーションと介助・検査測定編, 金原出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:100点 出席・基本的態度 提出物内容・実習遂行状況 実習要項等による総合判定		2年次までに修得した知識や技術をしっかりと復習し、臨床現場では積極的に臨むようにしましょう。	

OT2年 後期		講義概要	一般目標
その他		地域リハビリテーション実習履修に向け、実習前の準備および振り返りを行う。 実習の目的・内容を理解した上で、自身で実習目標を策定していく また、実習後に自身の学習成果を振り返り、目標到達度の確認・課題の発見などを行い、次年度の学習目標を策定していく	◎地域リハビリテーション実習の準備と振り返りが行える
地域リハビリテーション実習演習			
1単位	8回		
作業療法学科：金谷優志			
回	項目	この講義で学ぶこと・行動目標	
	行動目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域リハビリテーション実習の目的と内容が理解できる</li> <li>◎地域リハビリテーション実習で行く実習地の情報を収集できる</li> <li>◎地域リハビリテーション実習で必要な技能を理解し、練習する</li> <li>◎地域リハビリテーション実習で必要な技能の実施水準を客観的に理解する</li> <li>◎地域リハビリテーション実習で学んだことを整理し、他学生に伝える</li> <li>◎地域リハビリテーション実習の経験から今後の具体的目標を考えられる</li> </ul>	
1	オリエンテーション	地域リハビリテーション実習説明(実習・実習演習) 要項の内容確認	
2	基本技能練習	手指衛生, 自己紹介, 対象者とのコミュニケーション, 車いす介助	
3	技能体験	対象者に対し, 基本技能の実施を体験する	
4	実習前発表	地域リハビリテーション実習で何を学んでくるか, 準備を通して見えた自身の課題や目標の発表を行う ◎1人5分程度の発表	
5	地域リハビリテーション実習 実習体験報告①	◎地域リハビリテーション実習を経て整理した, 実習体験報告を行う ◎整理された自身の体験・感情・思考を他者に伝えることができる ◎他者の報告を聴講し, 作業療法の多様性を認識することができる  ◎1人15~20分程度の発表	
6	地域リハビリテーション実習 実習体験報告②		
7	地域リハビリテーション実習 実習体験報告③		
8	総括	地域リハビリテーション実習で学んだことをいかに今後の学びに活かすか 次年度に向けた目標策定を行う	
教科書・参考書・資料			
才藤栄一 監:臨床技能とOSCE 第2版補訂版 コミュニケーションと介助・検査測定編, 金原出版			
判定基準/割合		履修上の留意点	
平常点:100点 実習体験報告への評価点 および出席点等にて 総合的に判定する			